

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-----------------|---|-----------|
| ○事業所名 | 愛の木 児童発達支援 niji | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和8年2月9日 | | 令和8年2月20日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 2 | (回答者数) 2 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和8年2月9日 | | 令和8年2月13日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 4 | (回答者数) 4 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年2月28日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 個別性を重視した専門的支援の提供 | 半年ごとの支援会議や日々のミーティングを通してアセスメントを行い、個々の発達段階や保護者ニーズを反映した個別支援計画を作成している。標準化ツールと日常観察の両面から評価を行い、職員間で共有しながら支援を実施している。 | 支援の根拠や評価プロセスをより可視化し、保護者へ分かりやすく発信する機会を増やす。外部研修やスーパーバイスを積極的に取り入れ、専門性のさらなる向上を図る。 |
| 2 | 保護者との信頼関係と丁寧な情報共有 | 送迎時や連絡ノートを活用し、日々の様子や小さな変化も共有している。相談しやすい関係づくりを大切にし、面談や助言の機会を設けながら共通理解の形成に努めている。 | 保護者向け勉強会や家族支援プログラムの実施を検討し、保護者同士がつながれる機会を拡充する。情報発信の頻度や内容を見直し、より双方向のやり取りを促進する。 |
| 3 | チーム支援と業務改善体制(PDCA)の確立 | 支援前後の打合せや定期的なカンファレンスを行い、役割分担や振り返りを徹底している。職員の意見を共有しやすい雰囲気づくりを行い、業務改善へつなげている。 | 振り返り内容を記録として体系化し、改善事例を蓄積する。第三者評価や外部視点を活用し、より客観的な質向上の仕組みを強化する。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 地域交流・保護者交流の機会が限定的 | 少人数利用であることや、保育園併用児のみである現状あり。独自の交流機会が少ない。保護者会やきょうだい支援も現時点で定期的ではない。 | 保護者のニーズも受けながら、小規模でも実施可能な保護者交流会等を今後も検討・実施していく。地域行事への参加や他事業所との合同企画など、段階的に交流機会を増やすことも検討する。 |
| 2 | 非常時対応・マニュアル周知の十分な伝達 | マニュアルは整備されているが、保護者への定期的な再周知や訓練内容の可視化が十分とは言えない。 | 避難訓練やBCP訓練の様子を通信やSNSで発信し、取り組みを見える化する。 |
| 3 | 家族支援プログラムの体系化不足 | 個別相談は実施しているが、ペアレント・トレーニング等の体系的な家族支援の導入は現時点では行っていない。 | 保護者のニーズを受けながら、小規模でも実施可能な講座や情報提供会を検討する。家族支援を継続的な取組へ発展させることも検討する。 |